

## エンジニアリングフェスティバルへようこそ！ ～新研究部の研究成果をくらしと産業の舞台へ～



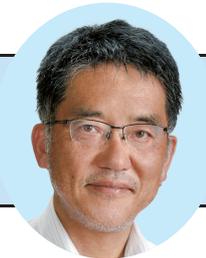
本年4月に本学の改革の一環として、徳島大学理工学部と生物資源産業学部が発足しました。それに伴い教員の所属する組織としての大学院ソシオテクノサイエンス（STS）研究部は、理工学研究部と生物資源産業学研究部となりました。両研究部は、これまでと同様に学内や他大学との研究交流、産学官連携の推進を目的としてエンジニアリングフェスティバルを開催して参ります。今回はSTS研究部での開催を含め16回目となりますが、優れた研究シーズを産業界へ公開・提供することにより、共同研究、技術移転ならびに製品開発等に発展することを目指しています。

本年度は、両研究部の重点研究、若手研究、一般研究、前年度のSTS研究部先端工学教育研究プロジェクト（研究部長裁量プロジェクト）に関する研究発表に加えて、本学の研究支援・産官学連携センターや他の関係センターの紹介、阿波銀行学術・文化振興財団研究助成採択者、学外からは香川大学工学部の研究成果と、今後の活躍が期待される若手教員による講演発表会ならびに特別講演を予定しています。特別講演では、徳島県民環境部環境首都課自然エネルギー推進室の内海はやと係長様にご講演いただきます。本県の水素グリッド構想について興味深く示唆に富むご講演がいただけるものと期待しております。

本フェスティバルにおける両研究部のシーズ公開が、社会に役立つ有用な成果に発展することを期待しています。本学の教職員、学生、大学院生はもとより、学内外連携機関や企業等から多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

大学院理工学研究部長 河村 保彦

## 大学院生物資源産業学研究部もエンジニアリング フェスティバルに参加します



昭和63年に工学部のバイオ系学科として、全国3番目に設立された生物工学科は、工学部、工業会、大学の暖かい支援のおかげで、国際的に評価される研究を通して、多くの人材を製薬、化学、食品関連企業、大学に人材を輩出してきましたが、本年度より、生物資源産業学部および大学院生物資源産業学研究部として生まれ変わることになりました。これまでのご支援、本当にありがとうございました。

生物資源とは、一次産品のみならず、微生物、細胞、バイオマス等を含みますが、地方は都会より生物資源に恵まれ、生物資源の活用は地方の活性化の鍵になると思われまます。また、農工連携といわれるように、これからのバイオ技術の活用には、さらなる工学、医学等との連携が不可欠です。ノーベル賞を受賞された下村脩博士や大村智博士の研究は、まさに大学院生物資源産業学研究部がめざす研究分野であります。下村脩博士は、クラゲから緑色蛍光蛋白質（GFP）を分離しましたが、その研究成果は医学に応用され、病気の診断に利用されています。大村博士は土壌菌が生産する有用な天然有機化合物の探索によって、熱帯地方の風土病であるオンコセルカ症、フィラリア症等感染症の特効薬であるイベルメクチンを開発されました。本研究部では、生物資源の生産、加工、機能食品の開発、バイオマスの有効利用、生物資源からの創薬にバイオ技術を融合し、アグリ、フード、ヘルス分野で新しい産業育成に貢献できる研究をめざしています。これらの目的のためには、多様な分野との共同研究が必要ですので、ぜひ多くの方々の参加、討論を期待しています。

大学院生物資源産業学研究部長 辻 明彦